合格体験記（一般入学試験）

看護 学部　看護 学科　専攻

出身高校名　岐阜北 高校

（1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私が同志社女子大学を志望した理由は、ビッグシスター制度など充実した学生サポートに強く魅力を感じたからです。私は看護師を目指す上で自立した人間になろうと思い、大学では一人暮らしを考えていました。そんな時に出会ったのが同志社女子大学です。ここでなら、安心して楽しい学生生活を送れそうだと思い、受験しました。

（2）一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

まずは身の回りの学習環境を整えることから始めました。私の場合は、放課後の教室と塾の自習室が集中しやすかったので、そこで勉強することを習慣にしました。
学習内容としては、基礎を定着させることを大切にしていました。しかし、今考えるとこれは1、2年生のうちにもできることだったので、もっと早く対策を始められたと少し後悔しています。

〔夏休み〕

私はセンター試験も受験したので、この時期はまだ科目は絞らずに勉強していました。実際に、同志社女子大学の入試で使用したのは、現代文と英語だけだったのですが、評論文を読解する上で、倫理で身に付けた知識が役立ったこともありました。
また、入試本番で自分が一番、実力を出しきれる科目を選択できたのも、この期間の存在が大きかったと思っています。

〔2学期～入試直前〕

センター試験までは、対策問題集と過去問を活用して、ひたすら演習と間違えた問題の復習を繰り返していました。
センター試験後は、同志社女子大学の一般入試に向けて過去問を使った演習を行ないました。
また、私が受験した国語と英語では、漢字、ことわざ、英単語、英文法などの基本的な知識を求める問題が多かったので、学校の小テストなどで使用していた単語帳や、一問一答式の問題集にも取り組みました。私は試験会場までの移動時間や試験が始まる前にずっと英単語帳を見ていたのですが、そのせいか本番では落ちついて英文を読めました。これはおすすめです。

（3）この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

受験生の一年間は切り換えを意識して勉強していました。特に高校生活最後の文化祭に向けては、夏休みや放課後の時間を利用して、何度もクラスの出し物である劇の練習を行なっていましたが、どんなに疲れていても、家に帰る前に塾に寄って勉強するようにしていました。
テレビやスマートフォン等についても同じです。受験生の間はできるだけテレビを見ないように意識していましたが、勉強の後に自分へのご褒美として、録画した番組をコマーシャルを早送りしながら見ることはありました。
スランプの時は、不安にもなりましたが、志望校は変えずに努力し続けました。目標を変えなかったことが、今の結果にもつながっていると思います。

（4）受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は大学入試は人生の大事なポイントだと考えています。また、この時期に多くの人が本気で受験勉強をするのも同じ理由だと思います。しかし、努力が必ず報われるとは限りません。だからこそ、後悔のないように勉強してほしいです。その事実が、新たなステージでのエネルギーになると信じています。
皆さんの健闘を祈っています。